

**嶋田一味・悪質ジャーナリスト・警察権力が一体となった
組織破壊攻撃をF21の仲間とともに打ち砕く！**

「土屋問題」の「公訴時効」を勝ちとる！

5月13日、いわゆる「土屋問題」でJR東労組の組合員21名（F21）が告訴されていた事件の「公訴時効」が成立しました。F21の仲間は4回にもおよぶ警察からの事情聴取など、権力からの弾圧に怯むことなく全国の仲間の支援・連帯のもと毅然と闘い抜き、昨年11月30日には不起訴処分を勝ちとりました。今回の「公訴時効」で「土屋問題」が嶋田一味（現ジェイアール労組幹部）・悪質ジャーナリスト・警察権力によるJR東労組・JR総連への組織破壊攻撃であることが明確となり、私たちはその狙いを打ち砕き勝利を勝ちとったのです。

この闘いの勝利を全体で確認し、新たな闘いへの決意を打ち固めるために、JR東労組は13日さいたま市内において集会を開催しました。

「土屋問題」は以下の状況の中でデッチ上げられました。2002年10月31日にJR東労組から嶋田一味が逃亡、そして翌日に美世志会7名の不当逮捕という大弾圧のさなか、JR東労組の部会・分科会にも意図的な組織混乱が持ち込まれました。土屋らが本部大会代議員に突如立候補したため、結成以来初の代議員選挙となったのです。

JR東労組運車部会は2003年5月10日～13日の常任委員会でこの問題を解決するため議論し「総団結のもとJR東労組運動を前進させる」ことを全員で決定しました。土屋も「スッキリした。長野で組織破壊と断固闘う」と決意し、自分の車で職場に帰り仕事に就いていました。ところが4日後に「常任委員会での議論により精神的被害を受けた」として入院したのです。

その後、組織的に解決をしていたにもかかわらず、3年後の2006年9月6日になって土屋が佐久警察署に告訴していた事件が「土屋問題」です。嶋田一味はこの事件を口実に「JR東労組を良くする会」を結成、後に分裂組織「ジェイアール労組」を結成したことからも、この事件がJR浦和電車区事件以降の連続した組織破壊攻撃の一つであることがはっきりします。



決意を述べるJR東労組千葉委員長



連帯の挨拶をするJR総連加藤共闘部長

**勝ちとった勝利に自信と確信をもって
反弾圧・国政の闘いを全力で取り組もう！**